

# 飯島町観光基本計画

『山と水を活かした自然観光のまち』

～ いいじまプライドの醸成 ～



飯 島 町

## 「山と水を活かした自然観光のまち」を目指して



観光庁では、『観光先進国』への新たな国づくりに向けて、平成28年3月、「明日の日本を支える観光ビジョン」を策定しました。これは、「観光立国推進基本計画」をより具体的なものとするべく、日本らしい多様な観光資源を誇りを持って磨き上げ、その価値を国の内外へ伝えていくことが必要であるとし、これからの地方創生の礎となるよう取組を進めるというものです。

飯島町の観光産業は、千人塚公園のスケート場に始まり、近年は全国的にも珍しいふたつの道の駅の開業や農業の6次産業化などにより、県内外から多くの観光客に訪れていただいております。しかし、飯島町の「自慢の宝物」である、ふたつのアルプスを背景にした美しい里山や田園風景などが十分に観光やまちづくりに反映されていない現実があり、人口減少、地域活力の低迷が懸念される昨今、地域資源を最大限活用した観光によるまちづくりが求められています。

一方で、近い将来、リニア中央新幹線の開業や三遠南信自動車道の延伸などにより、都市部と飯島町の距離は格段に近いものとなり、地域経済の活性化への期待は確実に高まっています。また、都市部では田園回帰の動きが高まっており、田舎の魅力が見直されています。これらの追い風を最大限に受けるためにも、飯島町観光基本計画を策定し、戦略的な施策を展開してまいります。

飯島町観光基本計画では、目指す姿を「山と水を活かした自然観光のまち」と定めるとともに、「いいじまプライドの醸成」と副題をつけました。これは、私たち住民一人ひとりが積極的に観光事業に参加し、地域資源を観光資源へと磨き上げることで、飯島町に暮らすことへの誇りを醸成したいという思いが込められています。

50年、100年先の飯島町を想ったとき、この美しいアルプスの景観を未来へと引継ぎ、賑わいと活力ある町であることを願い、持続可能で魅力あるまちづくりを住民一丸となって推進していく所存です。

結びに、本計画の策定に当たり、貴重なご意見やご提言をお寄せいただいた住民の皆様、ご協力いただきましたすべての皆様に心から厚くお礼を申し上げますとともに、計画の目標を達成するため、今後とも一層のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成30年（2018年）3月

飯島町長 下平 洋一

## 目 次

|                                        |           |
|----------------------------------------|-----------|
| <b>1 計画の概要</b> .....                   | <b>1</b>  |
| (1) 計画策定の背景.....                       | 1         |
| (2) 計画の目的.....                         | 2         |
| (3) 計画の位置付け.....                       | 2         |
| (4) 計画の対象期間.....                       | 2         |
| <b>2 目指す姿（ランドデザイン）</b> .....           | <b>3</b>  |
| (1) 計画が目指す姿.....                       | 3         |
| (2) 目指す姿への思い.....                      | 3         |
| <b>3 飯島町の観光資源</b> .....                | <b>4</b>  |
| <b>4 具体的な取組（アクションプラン）</b> .....        | <b>6</b>  |
| (1) （仮称）与田切溪谷ウォーターパーク構想.....           | 7         |
| 1) 与田切公園.....                          | 9         |
| 2) 千人塚公園.....                          | 10        |
| 3) 坊主平・御座松エリア.....                     | 11        |
| 4) 滝ヶ原周辺エリア.....                       | 12        |
| (2) 地域資源を観光につなげる取組.....                | 13        |
| 1) 「（仮称）飯島町観光戦略会議」の設置.....             | 13        |
| 2) 推進体制の「仕組み」の構築.....                  | 13        |
| 3) 具体的取組の推進.....                       | 15        |
| 4) 上伊那DMO、伊南DMOとの広域連携による観光推進.....      | 18        |
| <b>5 それぞれの役割と進捗管理</b> .....            | <b>19</b> |
| (1) 行政、観光協会、住民・事業者の役割.....             | 19        |
| (2) 進捗管理.....                          | 20        |
| 1) 定性的評価.....                          | 20        |
| 2) 定量的評価.....                          | 20        |
| (3) 「まち・ひと・しごと創生 飯島町総合戦略」における数値目標..... | 20        |
| <b>参考資料</b> .....                      | <b>21</b> |
| 飯島町観光意識調査関連資料.....                     | 21        |

# 1 計画の概要

## (1) 計画策定の背景

私たちのふるさと飯島町は、今、転換期を迎えています。急速な人口減少により、かつて経験したことのない超少子高齢化社会が訪れつつあります。そうしたことから、農村景観や町並みの維持など地域活力をどう維持していくか、私たちのふるさとを今後、どうしていくのか、真剣に考え、行動に移す時が来ています。

かつて、経済成長を追い求めた価値観は、変容しつつあります。都市部に人やモノが集中し、地方部の閉塞感が漂う時代は過ぎ、穏やかな農村景観、そこに流れる緩やかな時間、そうした、飯島町の住民にとってはあって当たり前の何気ないモノ・コトに、価値が見いだされるようになってきました。

そうした時代の変化を捉えたとき、私たちは、具体的に何を思い、どう行動に移せば良いのでしょうか。その答えの一つが、観光をツールとした地域振興です。ここでいう観光とは、温泉地を巡るような従来のあり方とは異なります。価値観の変遷に応じた、飯島町では当たり前のモノ・コトを町内在住者、町外からの来訪者双方が、見つめ直し、楽しむ、そんなあり方です。こうした観光の振興は、交流人口（町外から町内に訪れる人口）の増加を図るとともに、生産年齢人口の流出を抑え、地域社会の活力の維持・向上を図る手段として期待され、全国的に取組が広がっています。

飯島町では、これまでも観光の振興に取り組んできました。直近では、平成 14 年（2002 年）に道の駅花の里いいじまが、平成 28 年（2016 年）には道の駅田切の里が開業し、特産品の開発の面では、栗菓子製造販売企業の町内への出店などにより、新たな賑わいが生まれています。また、与田切川で自然に親しむイベントの展開や米俵マラソンの開催など、住民主体の地域振興の活動の芽吹きも見られます。

一方、与田切公園や千人塚公園、シオジ平などの観光拠点は、施設の老朽化や十分な整備が行き届いていない現状があります。つまり、これら観光拠点が持つ本来の魅力を十分に引き出せていない状況が続いています。

このように飯島町には、大勢の観光客が押し寄せるような観光資源や拠点が豊富というわけではありませんが、隣接する駒ヶ根高原への観光客は年間約 57 万人（平成 28 年度実績）であり、飯島町の交流人口を増加させる潜在的な可能性を秘めています。それに加え、駒ヶ岳スマートインターチェンジが開通し、2027 年にはリニア中央新幹線の開業や、近い将来、三遠南信自動車道が開通予定であり、さらなる交流人口の増加への期待もあります。

そうした中で、飯島町において当たり前のモノ・コトをどう活かし、地域振興を図るか。大切なのは、飯島町に暮らす私たちの意識の持ちよう、そして行動です。そのため、観光をツールとした地域振興を図るための具体的な取組方針を明らかにすることが必要なのです。

## (2) 計画の目的

この飯島町観光基本計画（以下「本計画」という。）は、「どのような観光によって地域振興を図るか」の方針を定め、観光をツールとした地域振興のあり方を明確にし、それをどのように進めるか、ということを示すために策定します。

今後、ますます人口が減少する時代において、大きな投資を前提とする観光は困難です。むしろ、一つずつ成果を積み重ねながら、必要に応じて積極的な一手を打つような戦略的な姿勢が求められます。

本計画では、未来に向かって持続的で活力あるまちづくりを計画的、総合的に推進していくことを目的として、観光をツールとした地域振興の体制や方策を明らかにします。

## (3) 計画の位置付け

本計画は、飯島町全体のまちづくり、地域づくりの基本指針として策定する第5次総合計画の下位計画に位置付けられます。また、観光分野においては、長野県観光振興基本計画や飯島都市計画（長野県）が既に策定されていますので、それらとも連動します。また、既に策定済みの飯島町環境基本計画や国土利用計画、現在策定中の景観計画とも連携する計画です。

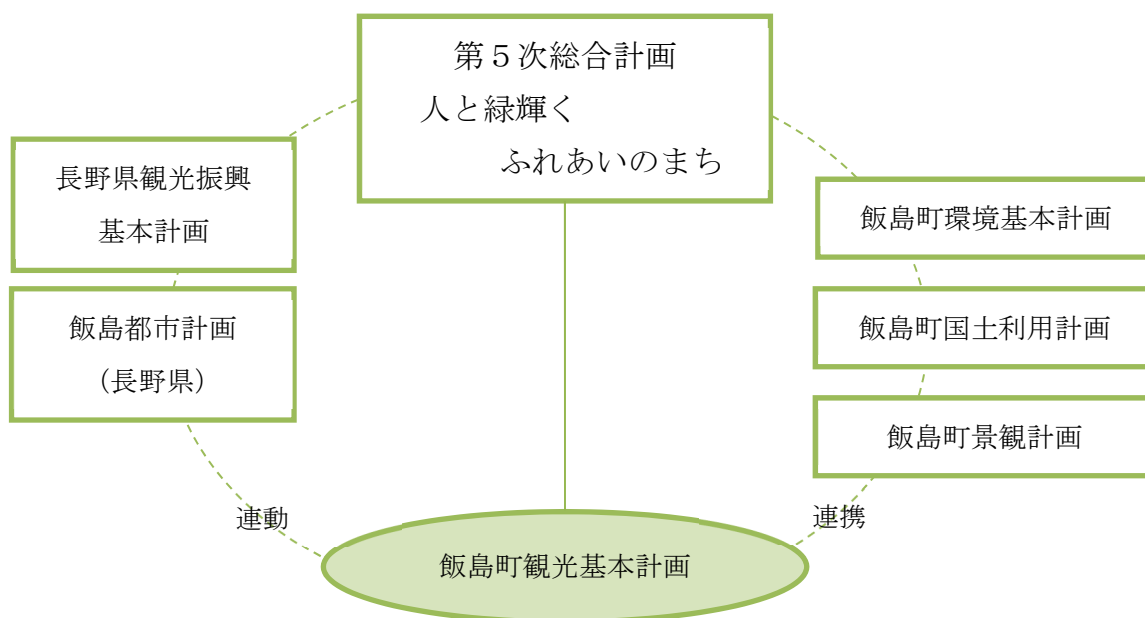


図 飯島町観光基本計画の位置付け

## (4) 計画の対象期間

計画の対象期間は、平成30年度から第6次総合計画前期終了となる平成37年度までの8か年とします。



## 2 目指す姿（グランドデザイン）

### (1) 計画が目指す姿

飯島町における観光振興とは、地域の魅力を結集し、発信することです。私たちはつい、自分たちのふるさとが地方に位置し目立った観光資源が少ないことから、「何もない」と思いがちです。それは、日々の暮らしの中で、あまりに身近で当たり前だからです。しかし、それら「当たり前」は、光の当て方によって、大きく輝くものです。

住民自らが観光資源となる多種多様な地域資源を掘り起こし、磨き上げ、この「大いなる田舎」を町内外へ伝えていくことにより交流人口の増加が図られます。

そのためにも、住民が「楽しみ」、「憩い」、「集う」ことができる場所を整備すること、また、それらの田舎の楽しみを戦略的に継続させていく、仕組みや組織を構築することが必要となります。それには、行政だけではなく、地域住民の知恵と行動の結集が不可欠です。

本計画が描く将来の飯島町の姿は、以下のとおりです。

### 『山と水を活かした自然観光のまち』

～ いいじまプライドの醸成 ～

### (2) 目指す姿への想い

「ふたつのアルプスが見えるまち」のキャッチフレーズで表されるとおり、中央アルプス、南アルプスを望むことができる飯島町の景観は、最大の観光資源です。これら雄大な山々は、この先何百年もここに在り続け、社会情勢が変わったとしても、人々を魅了し、惹きつけ続ける存在です。

中央アルプスの麓に住む私たちは、普段この恩恵を忘れがちです。しかしながら、この恵まれた資源を「活かし」、「楽しみ」、「遊び」尽くすことで、飯島町に暮らす喜びや愛着心を再確認できるのではないのでしょうか。

そのためにも、中央アルプスとその恵みの水を最大限活用するための環境整備を行い、また、観光振興を通じて地域の稼ぐ力を引き出すことにより、飯島町の活性化と誇り（プライド）の醸成を目指します。

こうしたことが実現すれば、今、私たちが目にしている町並みや、美しい農村景観、里山景観が保たれ、そこにまた人が集まってくる好循環が生まれます。これらにより、人口減少、高齢化社会を生きる私たちが、この資産を維持・発展させる持続可能な仕組みを生み出すことができ、未来へこの資産を引き継ぐことにつながるのです。

### 3 飯島町の観光資源

この章では、飯島町の観光資源を見ていきます。

次ページの表に記載した観光資源は、住民の皆さんにとって、とてもありふれた、日常的な存在といえるでしょう。しかしながら、これら一つひとつが飯島町の誇る大切な観光資源なのです。

もちろん、一つひとつを見れば、他の地域にもある何気ないもので、観光資源とは言えないものかもしれませんが、それぞれには、必ず背景があります。背景とはつまり、「なぜそれが飯島町にあるのか」、「どういう経緯で住民の皆さんが受け入れ、受け止め、そして日常に取り入れてきたか」というストーリーです。

例えば、山菜やキノコ採り。こうしたことは、住民の皆さんにはとてもなじみ深い行為でしょう。しかしながら、こうした行為は、私たちの先人が培った知恵であり、暮らしに欠かせぬ糧を得る技術であったのです。そうしたこともあわせて伝え、体験する。農村になじみのない町外からの来訪者、あるいは海外からの来訪者にとってみれば、そうしたストーリーに接した途端に、飯島町でしか味わえない魅力ある観光資源となり得るのです。町内に数多くある「ビュースポット」も同様です。単なる「眺めの良い場所」は、町外にたくさんありますが、そこに秘められた大地の成り立ちのストーリーなどが語られれば、それは「そこにしかない眺め」になるのです。



表 潜在的な観光資源となる事例

| ジャンル            | 地域資源                                                     | エリア             |
|-----------------|----------------------------------------------------------|-----------------|
| <b>自然</b>       |                                                          |                 |
| 山岳              | 百間ナギ、氷河地形、傘山、烏帽子岳、御嶽山、断層崖、田切地形、県立自然公園、町民の森               | 山岳エリア           |
| 風景・景観           | ふたつのアルプス、花畑、田園風景、星空、夜景、花火、雲海、雪形                          | 町内全域            |
| 農業              | 農業体験、直売所、土手草刈り                                           | 町内全域            |
| 動物              | アサギマダラ（蝶）、ミヤマシジミ（蝶）、蜂追い、ホタル                              | 町内全域            |
| 植物              | サクラ、モミジ、コスモス、山野草、山菜、キノコ、植林、森林整備                          | 町内各所<br>及び山岳エリア |
| アウトドア           | 登山、キャンプ、バーベキュー、釣り、カヌー、ヨット、川遊び                            | 町内各所<br>及び山岳エリア |
| <b>文化</b>       |                                                          |                 |
| スポーツ            | 各種スポーツ、マレットゴルフ、弓道場、合宿誘致                                  | 町内各所            |
| 歴史              | 陣屋跡、飯島城址、飯島氏顕彰会、名利巡り、古民家再生                               | 町内各所            |
| 芸能・芸術           | 獅子舞、太鼓、人形劇、ひょっとこ踊り、フィルムコミッション                            | 町内各所            |
| 音楽              | フルート、大正琴                                                 | サークル活動          |
| <b>特産品・イベント</b> |                                                          |                 |
| 特産品             | リンゴ、梨、蕎麦（信濃そば1号）、花卉、栗、米、酢、味噌、五平餅、カモ、馬肉、アルプスサーモン、ねこつぐら、米俵 | 町内各所            |
| イベント            | 花火大会（千人塚水中花火、地域秋祭り、大晦日新春花火大会等）、お陣屋行燈市、米俵マラソン、マレットゴルフ世界大会 | 町内各所            |



## 4 具体的な取組（アクションプラン）

先に述べた、計画が目指す姿を現実にしていくための方策が、ここで述べる具体的な取組（以下「アクションプラン」という。）です。

8年という本計画期間は、「山と水を活かした自然観光のまち」を実現するための、土台を築く期間と位置付けます。そこで、自然観光のシンボルとして与田切溪谷の整備を進めること、住民参加による観光推進体制の整備の2点を重点項目とします。

### 与田切溪谷の整備事業

与田切川周辺エリアの周遊コースの整備  
と活用方法の検討

#### ■（仮称）与田切溪谷ウォーターパーク構想

- ・与田切公園
- ・千人塚公園
- ・坊主平・御座松エリア
- ・滝ヶ原周辺エリア

### 観光推進体制の整備

観光をツールとした地域振興に長期的に  
取り組むための体制づくり

#### ■ 地域資源を観光につなげる取組

- ・「（仮称）飯島町観光戦略会議」の設置
- ・推進体制の「仕組み」の構築
- ・具体的取組の推進
- ・上伊那 DMO、伊南 DMO との広域連携による観光推進

## (1) (仮称) 与田切溪谷ウォーターパーク構想

飯島町の観光拠点である、与田切公園から坊主平・御座松エリアを越えて、千人塚公園に至る与田切溪谷一帯を「(仮称) 与田切溪谷ウォーターパーク」として整備を行います。

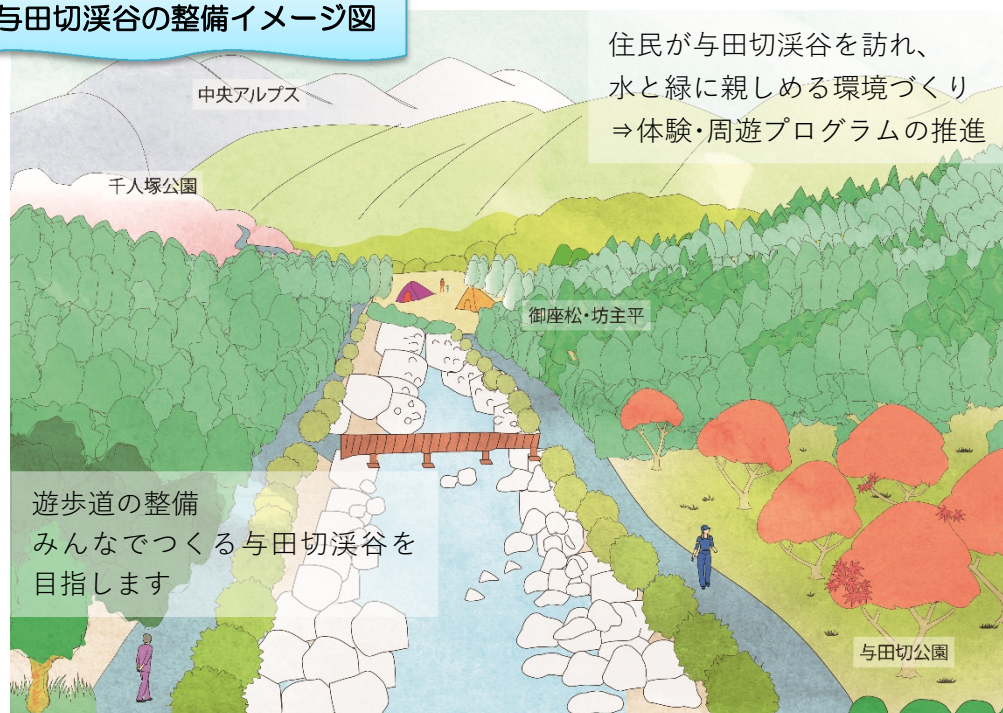
このエリアは、中央アルプスの恵みである与田切川の清流が織りなす、親水の空間です。春から秋にかけてはキャンプ客で賑わい、冬は澄んだ空気が夜空の星をより一層輝かせます。心と身体に潤いをもたらす、そんな場所となるよう各拠点の活用方法の検討と整備、それらをつなぐ周遊コースについて計画します。

現状では、与田切川は砂防事業も進み、安全に自然環境を楽しむことができる場所となっています。しかしながら、それらをつなぐ河畔の管理道は、人々の往来を想定して整備されたものではありません。そのため、未だ使われていない与田切溪谷の資源が数多く眠っています。

今後、与田切溪谷を人々が交流する場所として捉え、水に親しみ、河畔林の動植物を観察し学び、楽しむことができる観光拠点として周遊コースを整備することにより、与田切公園と千人塚公園の往来が増え、滞在時間が延び、飯島町を楽しむ余裕も生まれます。

これらの整備にあたっては、与田切川を所管する国や長野県との調整を図り、補助制度を有効に活用し、アウトドアフィールド事業構想や後段で記載する(仮称)飯島町観光戦略会議により、顧客満足と住民満足を基本的な視点として様々な活用方法について検討を進めます。

### 与田切溪谷の整備イメージ図



与田切溪谷の整備イメージ図



(仮称) 与田切溪谷ウォーターパーク構想の概念図 (イメージ)



## 1) 与田切公園

与田切公園は、河川敷の地形を生かしたリゾートパークで、キャンプ場、テニスコート、プール、屋外ステージなどの施設がそろい、気軽にキャンプやバーベキュー、水遊びが楽しめることから、町内外から多くの人を訪れます。

また、信州の名水・秘水に選ばれた「越百の水」は、適度なミネラルを含んだ硬度 24mg/l の軟水で、こちらも町内外の人から人気があり、水を汲みに来る人で賑わっています。

一方で、開園から 30 年が経過し、プールや屋外ステージなどの施設は、利用者の減少が課題であり施設全体の見直しの時期となっています。

そんな与田切公園では、ファミリー層の利用が多く、キャンプやバーベキューなど家族、仲間で利用する機会も多いことから、既存の老朽化したトイレ等のサニタリーを計画的に改修し、清潔で使いやすい観光拠点となるよう、取組を進めます。

また、テニスコート、プール等のスポーツ施設も老朽化が目立つことから、町内スポーツ推進団体との意見交換を行い、計画的な整備に努めます。

### 【内容と方針】

| 内容        | 方針                                                                                                                          |
|-----------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 公園内施設の再整備 | <ul style="list-style-type: none"><li>・老朽化した施設の計画的な更新を行う。その際、既存施設の廃止、縮小や代替の施設も併せて検討する。</li><li>・ファミリー層を意識した改修を行う。</li></ul> |



## 2) 千人塚公園

千人塚公園は、標高 830 メートルで県立自然公園内に位置し、周囲の木々によって生活感が遮断され、独自の世界観があります。ため池百選の城ヶ池の池畔からは中央アルプスを間近に望むことができ、春はサクラと残雪の構図に多くの写真愛好家が訪れます。また、マレットゴルフコース発祥の地として、多くの住民がマレットゴルフを通じて身体を動かし、健康づくりに一役買っています。

一方で、サクラの名所である千人塚公園のソメイヨシノの多くは、樹齢 80 年を超え計画的な植え替え等を行う必要があります。

そんな千人塚公園では、城ヶ池を使った海洋スポーツと複合的なアウトドアスポーツが楽しめる観光拠点として、既存の施設の活用と整備を推進し、飯島町を訪れる人へ体験プログラムを提供できる公園を目指します。

また、サクラの植え替えを計画し、未来へ引き継ぐ花の名所としての公園整備の検討を行い、その際、地域住民と協働して作業を行うことで、千人塚の樹木に愛着を持てる植え替えとなるよう努めます。

### 【内容と方針】

| 内容               | 方針                                                                       |
|------------------|--------------------------------------------------------------------------|
| アウトドアフィールド事業構想   | ・飯島町の自然を最大限活用できるよう、計画に基づき、施設の整備、体験プログラムの作成を進める。                          |
| (仮称) 千人塚植栽プロジェクト | ・樹齢が 80 年を経過したソメイヨシノの植え替えを行う。その際には多品種、他樹木への転換の検討も併せて行い、千人塚公園全体の植栽を面で考える。 |





### 3) 坊主平・御座松エリア

与田切川の兩岸にあり、与田切公園、千人塚公園をつなぐ場所に位置する坊主平・御座松エリアは、以前より住民の飯ごう炊さんや水遊びの場所として賑わってきました。平成 26 年に水洗トイレを建設し利便性が向上しており、春から秋まで県内外からのキャンプ客で賑わっています。また、与田切川沿いにモミジが植栽され、秋はきれいに色づきます。

一方で、両地をつなぐ御座松橋が老朽化し、改修の必要があります。

そんな坊主平・御座松エリアでは、安全に利用ができるよう管理人を配置するなど、適正な管理ができる体制づくりを進めます。

また、与田切川に沿って、健康づくりから本格的なランニングまで行うことができる、遊歩道、トレッキングコースの整備を行い、一年を通じて楽しめるエリアを創出します。その際、（仮称）与田切渓谷ウォーターパーク内を周遊できるようコースに配慮し、千人塚、与田切両公園の人の行き来を意識して整備を進めます。

#### 【内容と方針】

| 内容               | 方針                                           |
|------------------|----------------------------------------------|
| 遊歩道、トレッキングコースの整備 | ・千人塚公園から与田切公園までの周遊コース（遊歩道、トレッキングコース）の整備を進める。 |
| 適正利用、適正管理のあり方検討  | ・坊主平・御座松エリアを安全に利用できるよう、適正な管理ができる体制づくりを進める。   |



#### 4) 滝ヶ原周辺エリア

与田切川左岸にあり、坊主平への入り口に位置する滝ヶ原周辺エリアは、宿泊施設を備え、都会の学生の合宿等で多くの利用があります。また、傘山への登山道入り口に近く、山岳観光の拠点となっています。近年は、住民による花畑やビオトープの整備などにより、自然環境を観察することができます。

そんな滝ヶ原エリアでは、グリーンツーリズムやエコツーリズムなど、飯島町の自然を体感できる観光プログラムの拠点として整備を進めます。

また、隣接する堤や斜面の利活用を検討し、こどもから大人までが楽しめるエリアを計画していきます。

#### 【内容と方針】

| 内容            | 方針                           |
|---------------|------------------------------|
| 体験観光のプログラムづくり | ・飯島町だからこそできる体験プログラムを企画、実施する。 |



## (2) 地域資源を観光につなげる取組

飯島町において、観光をツールとした地域振興は、これから始まる新しい動き、取組です。この取組は、走り出した当初は良いのですが、熱意ある人材が不足するという人材難、予算が継続的に確保できないという経済難等により、多くの場合頓挫してしまいます。そのため、本計画における推進体制と仕組みの構築は、長期的な取組を実現する上で、きわめて重要です。

そこで本計画では、様々な取組を一元的に企画・運営・管理する機関を立ち上げ、こうした機関が中心となって長期的な取組を実現します。

### 1) 「（仮称）飯島町観光戦略会議」の設置

様々な取組を一元的に企画、運営、管理する機関（本計画では「（仮称）飯島町観光戦略会議」という。）を設置します。（仮称）飯島町観光戦略会議は、商工観光事業者、地域づくり関係者、観光協会等がメンバーとなることが想定されます。

（仮称）飯島町観光戦略会議において、観光拠点の整備計画や利活用の検討、体験プログラムを作成します。

### 2) 推進体制の「仕組み」の構築

推進体制を考える上で大切なことは、その体制を「仕組み」として考えることです。仕組みというのは、顧客満足と住民満足をかなえ、取組を継続する担保になります。

一般的な観光の取組は、観光事業関係者だけが関与します。しかしながら、本計画が目指す「地域の当たり前」を資源として活用する取組は、地域住民の参画が不可欠です。では、地域住民の参画を担保するものとは何でしょうか。それは、観光振興に関わることで、自らの暮らしが豊かになるという循環です。そうした循環をいかに生み出すか。国内でも類例が多くないそうした循環を、（仮称）飯島町観光戦略会議は構築します。

コラム

「仕組み」の例



[地域の観光資源を組み合わせたツアーの開催]

- 有料のプログラムを企画・運営  
(企画展開：(仮称)飯島町観光戦略会議)
- ツアーガイドはプログラムで活用する資源に詳しい地域住民



[交流人口増加に伴う地域経済への恩恵]

- 町内の事業体への経済効果
- 地域コミュニティの担い手不足解消



[地域住民への経済的フィードバック]

- ツアーガイドを務めた住民には謝金支払い  
(地域住民への直接的経済効果)



[基金化し地域振興へのフィードバック]

- 例えば草刈りに係る経費へ基金からの補助拠出



[ふるさと愛の醸成による生産年齢人口の確保]

- 身近な資源への気付き、Uターンの増加



このような仕組みを実現するためには、中核となる（仮称）飯島町観光戦略会議に企画力、コーディネート力、そして組織力が問われます。また、将来的には組織の法人化が求められ、収益も求められています。さらに国や長野県等とも深く連携することが求められます。これらを形に表わせば、下図のようになります。

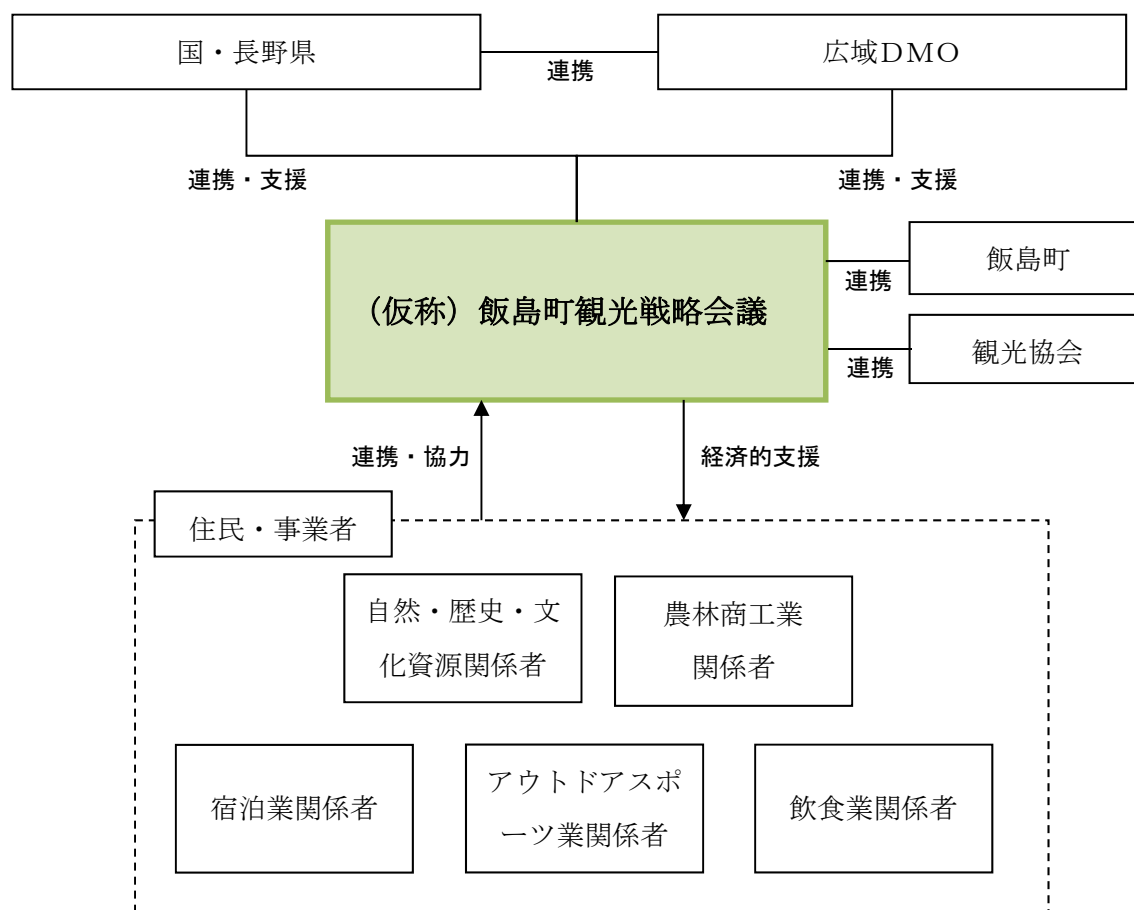


図 本計画の推進体制

### 3) 具体的取組の推進

具体的取組とは、地域の資源をどう活用し、魅力ある企画を展開するか、地域住民も一緒に考え、そして参画することです。取組のプロセスは、地域の資源の背景にあるストーリーをみんなで掘り起こすことから始まります。そして、地域の資源とストーリーを組み合わせ、魅力的で人を感動させる観光プログラムを企画します。

観光プログラムは、住民が資源の大切さに気付き、ふるさとへの愛情を育む上で、とても大切なものです。そのため、企画するプロセスも重要となります。そして、当然のことながら、来訪者に楽しんでいただくことこそ本題です。企画・運営に参画するメンバーは、「おもてなし」の心を常に持ち、いかに来訪者の満足を得るか、関係する地域住民の満足を得るか、の双方を常に念頭に置く必要があります。

下のフロー図に示したのは、いわゆるPDCAサイクル（Plan；計画、Do；実行、Check；検証、Act；改善）に基づく取組の進め方です。長期的な取組においては、小さな成功体験をいかに積み重ねるか、が大切です。そのためには、企画し、運営するだけでなく、顧客満足、住民満足がどの程度得られていたのか、改善すべき点はどこにあるか、常に検証し、改善する姿勢が求められます。

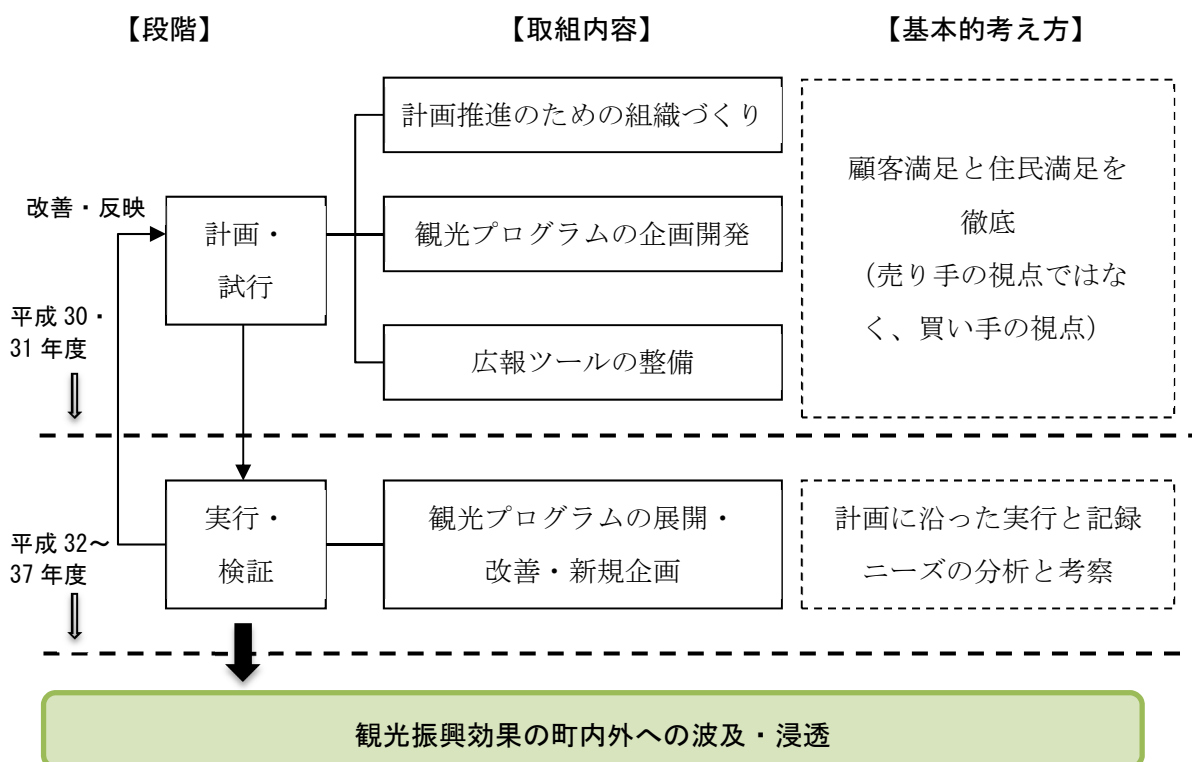


図 取組の進め方

### ① 計画・試行（平成 30～31 年度）

（仮称）飯島町観光戦略会議を立ち上げ、具体的な取組の方向性を参加者間で共有しつつ、広報ツールの整備や観光プログラムの企画開発を進めます。会議の構成メンバーは、観光事業者はもちろんのことながら、飯島町の自然・歴史・文化資源、農林商工業、飲食業等、多岐にわたる個人や団体で構成します。また、適宜上伊那DMO<sup>1</sup>や伊南DMOにもオブザーバー参加を求めるなどして連携します。

#### a. 観光プログラムの企画開発

（仮称）飯島町観光戦略会議では、参加者全員が議論に積極的に参加し、発言するようなワークショップ形式の会議を重ねます。

ワークショップ形式の会議で上がった企画は、行政が様々な支援をしつつ、企画に携わる

<sup>1</sup> DMO：地域にある観光資源に精通し、地域と協働して観光振興を担う法人のこと

個人・団体等が主体的に取り組み、積極的に試行します。試行する際は、小規模なモニターツアー（一般のモニターを募集し、企画内容への感想などを報告してもらう）形式とします。こうしたモニターツアーを実施し、企画を検証・改善することによって、観光プログラムの商品化を進めます。

なお、こうしたモニターツアーの参加者は、将来的には重要顧客となることも期待できます。

## コラム 観光プログラムの企画イメージ



### [観光プログラム 企画ワークショップの開催]

- （仮称）飯島町観光戦略会議が主催
- 観光資源に関係する地域住民等が参加



### [観光プログラム 企画の視点]

- 観光資源を組み合わせる
- 単なる体験ではなく、地域の歴史や自然、文化にまつわるストーリーを語る

#### 企画例：土手草刈り作業を体験する×山野草を楽しむ

- ①山野草を観察し、飯島町内の自然の特徴を知る。  
+ 食べられる山野草にしるしをつける。
- ②しるしをつけた山野草を刈らないよう注意しながら、草刈り体験。  
これによって飯島町の美しい農村景観を楽しむ、維持することに参画する喜びを体験する。
- ③飯島町内の農産物も加えながら、山野草を調理、試食会で楽しむ。

#### b. 広報ツールの整備

モニターツアーを試行しながら、飯島町の観光資源の掘り起こし、プログラム化を進めれば、飯島町の観光振興の特徴、特性が明らかになってくることが期待できます。そうした特徴、特性を整理して、飯島町の観光振興のキャッチコピーやロゴ等を作っていきます。また、町内外に情報発信するためのウェブサイトやパンフレット等を作ります。

### ② 実行・検証（平成 32～37 年度）

計画期間当初の 2 年間（平成 30・31 年度）を準備期間とし、平成 32～37 年度は、本格的な取組期間と位置付けます。

企画開発した観光プログラムによって、上伊那DMO、伊南DMOとも連携しながら、本格的に観光事業を展開します。観光事業を展開しつつ、改善を重ね、さらに新規企画も開発します。

### 4) 上伊那DMO、伊南DMOとの広域連携による観光推進

観光事業は、飯島町単独で収束するものではありません。また、それはどの自治体においても同様で、観光ルートが広域にわたり幅広く紹介されていた方が顧客満足度も高まります。また、これまで飯島町単独では実施できなかったインバウンド事業<sup>1</sup>や観光地間の二次交通の整備など、新たな観光事業の推進が期待されます。

現在、上伊那地域及び伊南地域において、DMO設立が検討されており、近隣自治体との連携や共同により事業を推進します。併せて、リニア中央新幹線の開業、三遠南信自動車道の開通を見越して、飯田・下伊那地域との連携について検討を進めます。

---

<sup>1</sup> インバウンド事業：外国人旅行者を誘致し、飯島町の観光振興を図る事業



## 5 それぞれの役割と進捗管理

### (1) 行政、観光協会、住民・事業者の役割

本計画を推進していくためには、行政、観光協会、住民・事業者など、飯島町に拠点を置き、あるいは活動をする方すべてが主体となって取り組む必要があります。

それぞれの果たすべき役割を以下に示します。

| 主体      | 役割と取組事項                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|---------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 行政      | <p>主体間の連携支援と経済的支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>観光振興に携わる様々な主体が行う活動の支援</li> <li>観光拠点となる町有施設の維持管理、整備</li> <li>国、長野県等との取組の連携</li> <li>広域的な観光振興への取組（上伊那・伊南DMOに参画し活動）</li> <li>（仮称）飯島町観光戦略会議の事務局として会議の進行や本計画の進捗管理、必要な予算措置と財源確保による総合的な観光振興施策の推進</li> <li>地域の歴史や文化、防災等を小中学校教育に反映し、郷土愛の醸成促進</li> </ul> |
| 飯島町観光協会 | <p>観光振興の中核的組織・取組の推進者</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>行政、商工会、事業者・住民など様々な主体と連携し、（仮称）飯島町観光戦略会議で練られた事業計画を主体的に実施</li> <li>観光協会の自主事業として、地域振興にかかる各種イベントの企画、運営</li> <li>広域への観光PR、情報発信による知名度向上と誘客</li> <li>自主財源で活動ができる体制を整え、収益事業の検討</li> </ul>                                                            |
| 住民・事業者  | <p>観光振興の重要性への理解と取組への積極参加</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>住民：（仮称）飯島町観光戦略会議に、地域資源のありかや魅力を積極的に情報提供するとともに、観光振興の取組に参加、協力、魅力発信</li> <li>事業者：（仮称）飯島町観光戦略会議に参画または協力し、長期的な視野で、地域資源を活用した事業展開（6次産業化等）、または取組への協力</li> </ul>                                                                                  |

## (2) 進捗管理

本計画の進捗管理は、飯島町、及び（仮称）飯島町観光戦略会議が担います。

なお、進捗管理は、「良い」「悪い」といった単純な評価ではなく、取組の方向性が正しいのか、関わる主体が満足しているか、そして顧客満足が得られているか、ということが重要です。

そのため、本計画の進捗管理は、定性的評価と定量的評価に分けて行います。それぞれの評価手法は、以下に述べます。

### 1) 定性的評価

定性的評価においては、（仮称）飯島町観光戦略会議が推進する取組に関する記録（アクションプランに基づく活動計画、観光プログラムの企画書、実施報告書、顧客満足度調査結果等）を基に、計画の進捗を評価します。ここでの評価は、取組内容の妥当性、改善点等を客観的な視点でチェックし、関わる主体の声も聞きながら、（仮称）飯島町観光戦略会議の活動にフィードバックするものです。

### 2) 定量的評価

（仮称）飯島町観光戦略会議は、計画の進捗を人口動態及び交流人口の動態、さらに地域住民の参加者数を基に定量的に評価します。計画の進展により、交流人口は増加すると共に、人口減少のトレンドが鈍化することが期待されます。また、地域住民の本計画に基づく取組への参加者数は、増加していくことが期待されます。

そこで、「まち・ひと・しごと創生 飯島町総合戦略」で示す下表の数値目標を基に、毎年、（仮称）飯島町観光戦略会議が計画の進捗を評価します。

なお、これらの数値目標は、計画期間途中段階では、評価基準は設けません。計画期間終了時点で数値目標が達成されるよう、途中段階では取組の方向性を毎年確認し、目標達成に向けて継続的に努力することが重要だからです。

## (3) 「まち・ひと・しごと創生 飯島町総合戦略」における数値目標

| 項目                      | 基準値             | 目標値            |
|-------------------------|-----------------|----------------|
| 人口の社会増減数                | -197 人（H22～H26） | 0 人（H27～H31）   |
| 滞在人口率 <sup>1</sup> （休日） | 1.83 倍（H26）     | 1.90 倍（H31）    |
| 観光客数                    | 280,700 人（H26）  | 300,000 人（H31） |

<sup>1</sup> 滞在人口率：町への滞在時間が2時間以上の人口÷国勢調査人口で表され、町に滞在する人がどれだけ多いかを示す

# 参考資料

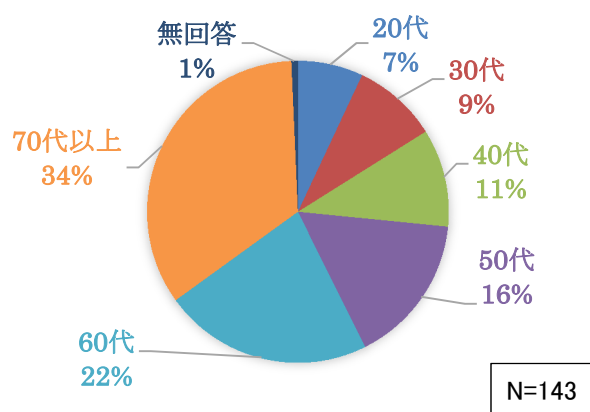
## 飯島町観光意識調査関連資料

本計画の策定にあたり、飯島町の観光資源及び住民意識を把握し、今後の観光関連施策の参考とするため、アンケート調査を実施しました。

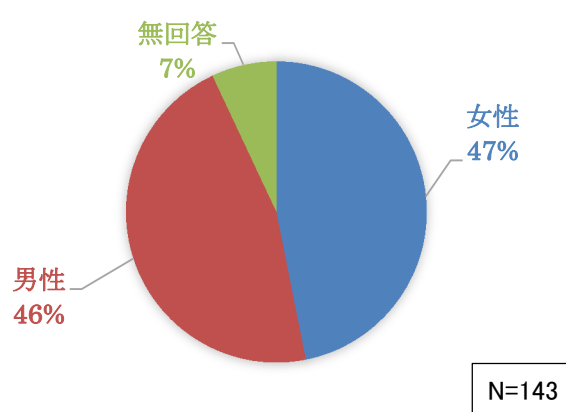
### アンケート調査の概要

調査期間 平成 29 年 9 月 4 日～9 月 29 日  
調査対象 飯島町在住の 20 歳以上の男女  
回答状況 回答数：143 票 回答率：28%

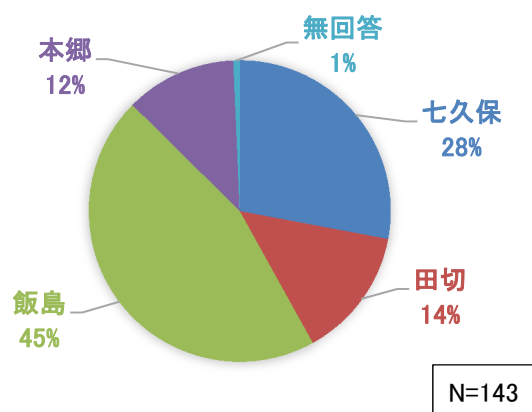
■回答者の年齢



■回答者の性別



■回答者の居住地区

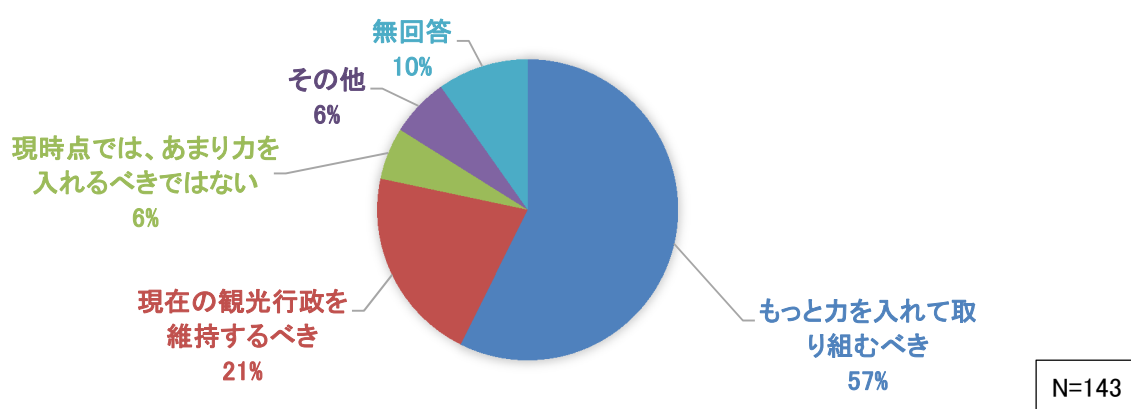


## アンケート調査結果

飯島町の観光資源については、住民自身が誇りを持っており、評価していることがわかりました。しかしながら、現状、その資源が十分に誘客へとつながっていないと感じているようです。今後の取組として、町全体の活性化を促すとともに、今ある観光資源を最大限に利用し、活用していくことが求められています。

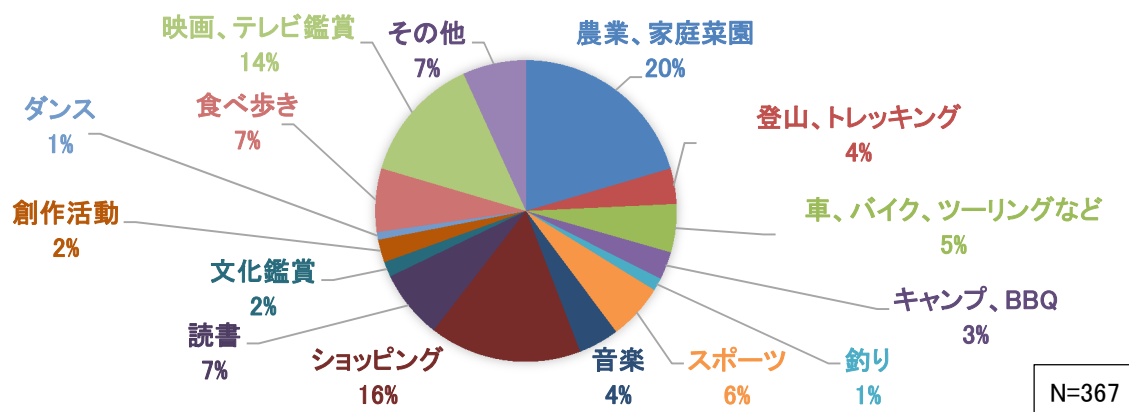
問 あなたは飯島町の「観光」についてどう考えますか？

もっと力を入れて取り組むべきという回答が最も多く、過半数を占めました。



問 あなたは休日、何をして過ごしていますか？（複数回答可）

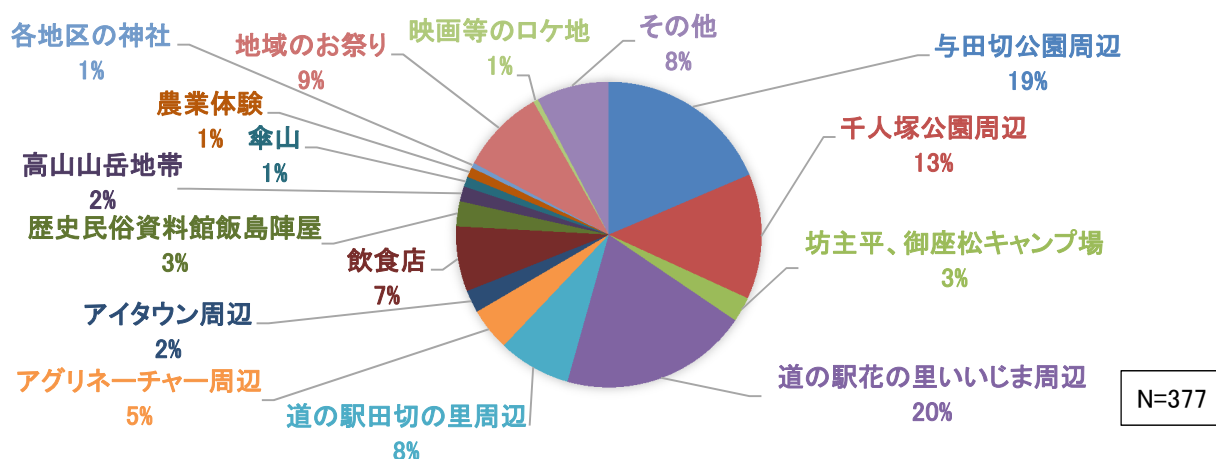
農業や家庭菜園、ショッピング、映画、テレビ鑑賞が多く、その他様々な過ごし方をしています。





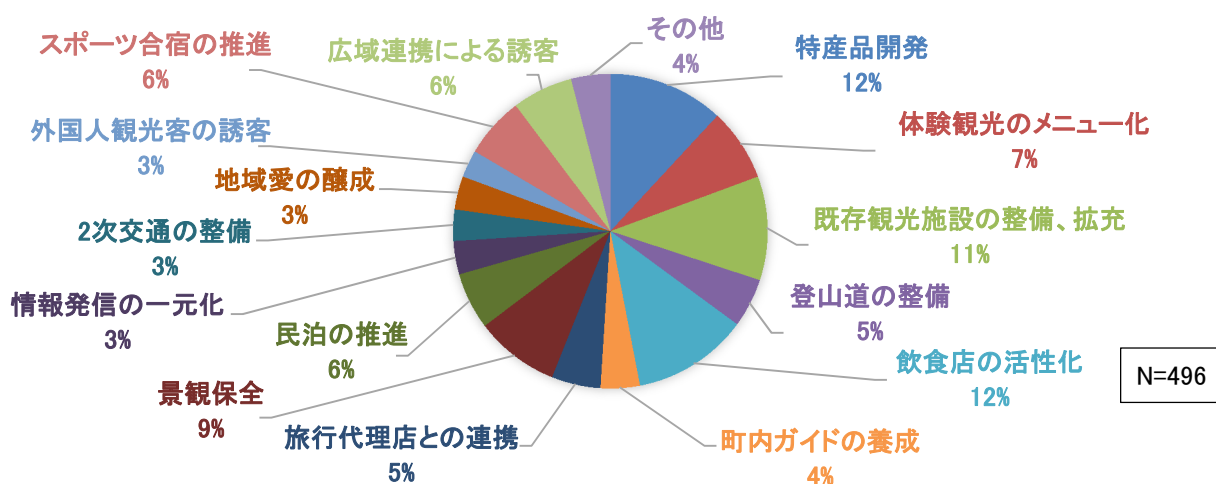
問 町外から友人が来たとき、町内のどこへ連れて行きます(行きたい)か？(複数回答可)

道の駅花の里いいじま周辺、与田切公園周辺、千人塚周辺の順に多く、観光地として既に整備されている場所がよく利用されている(または、利用したいと感じている)ことがわかりました。



問 観光客を増やすために“今”取り組むべきと考える町の施策はありますか？(複数回答可)

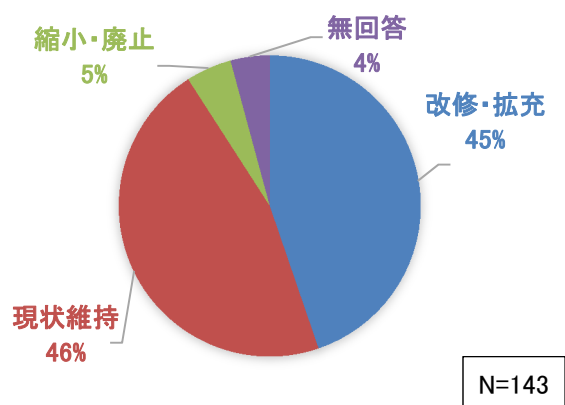
最も多かった回答は特産品開発、飲食店の活性化、次いで、既存観光施設の整備、拡充でした。しかしながら、選択肢に大きな偏りは見られず、観光客を呼ぶための様々な施策の充実化が求められています。



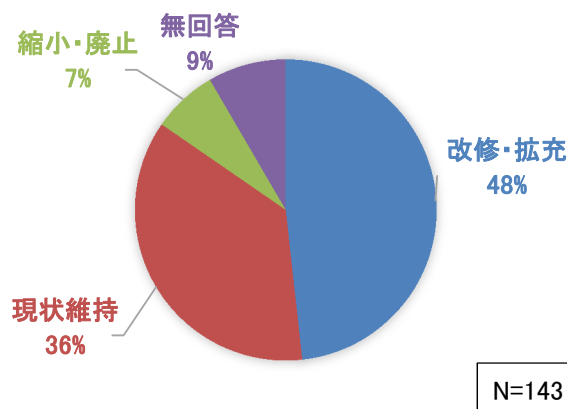
問 千人塚公園周辺を観光の拠点として整備を考えると、既存施設に対する思いはありますか？

サクラの名所は、現状維持と改修・拡充という意見がほぼ半分にわかれ、キャンプ場は改修・拡充、マレットゴルフ場は現状維持という意見がそれぞれ約半数を占めました。次頁の与田切公園に比べ、改修・拡充を求める声が多くなっています。

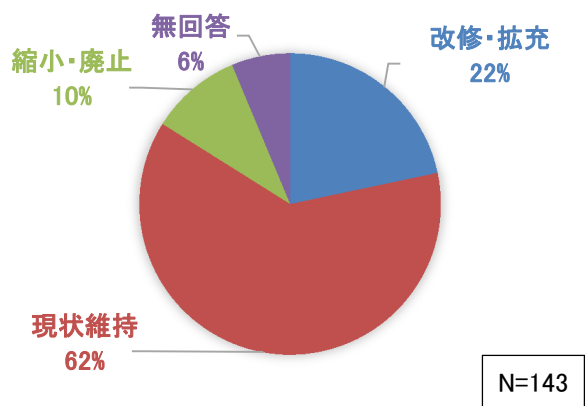
■サクラの名所



■キャンプ場



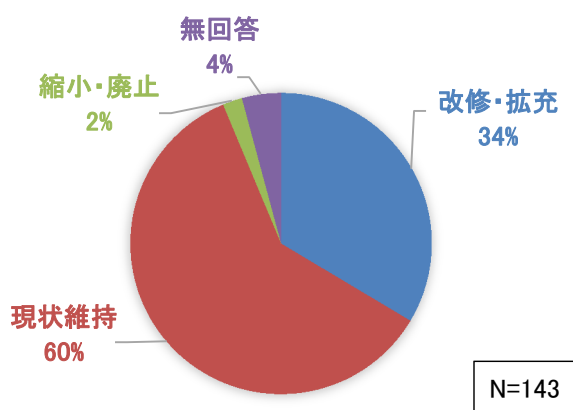
■マレットゴルフ場



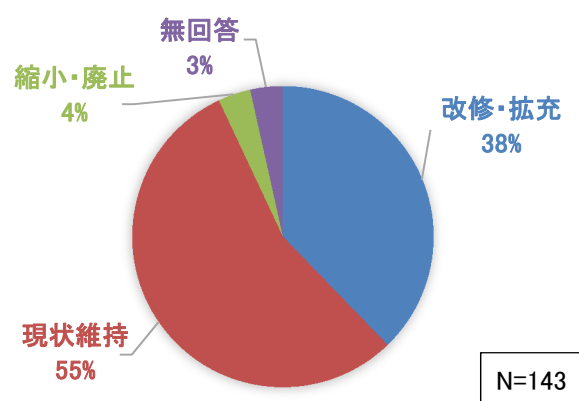
問 与田切公園周辺を観光の拠点として整備を考えると、既存施設に対する思いはありますか？

全ての既存施設において、現状維持が約半数を占め、多くの人が現状維持を望んでいます。

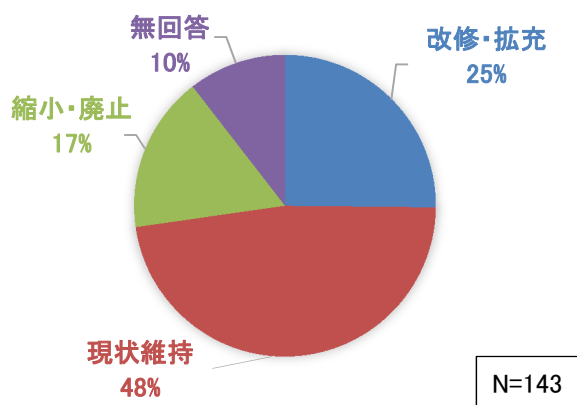
■サクラの名所



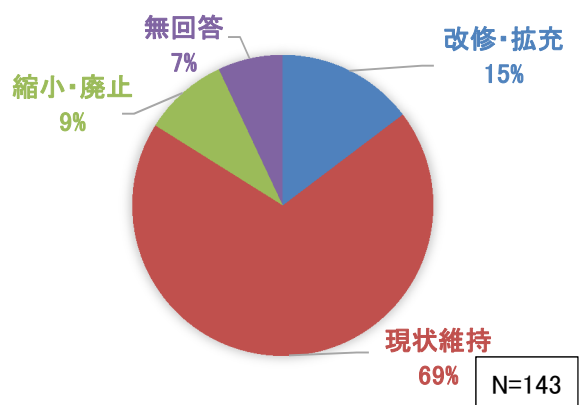
■キャンプ場



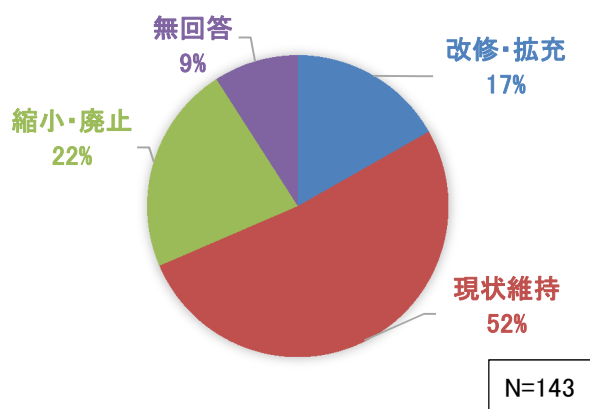
■プール



■テニスコート



■屋外ステージ



---

## 飯島町観光基本計画

発 行：飯島町

発行年月：平成 30 年 3 月

編 集：飯島町役場産業振興課

〒399-3797

長野県上伊那郡飯島町飯島 2537 番地

TEL 0265-86-3111（代表）

---